



滝中学校・滝高等学校 高瀬裕隆校長 インタビュー

学校法人滝学園の滝中学校・滝高等学校（愛知県江南市東野町）が今年、創立 100 周年を迎えた。県内屈指の進学校として優秀な生徒を育て、有力な卒業生を数多く輩出している。強固な意志で努力を続ける、感性豊かな人材を育成することなどを建学の精神として、グローバル社会で活躍できる能力を養成する。記念すべき節目の年に、中学・高校一貫校の校長を務める高瀬裕隆氏に有名進学校に発展した経緯や今後の教育方針などを聞いた。

「知識技能」偏重から、幅広い「教養」の醸成へ

— 創立 100 周年を迎えました。

高瀬裕隆・滝中学校・滝高等学校校長 1926 年に実業家として活躍していた創立者の滝信一郎先生が江南市に農業と商業を学ぶ滝実業学校を開校したのが始まりです。この 4 月に本校は満 100 歳になりました。

— 記念行事等は。

高瀬校長 100 周年へ向けてまず、国の登録有形文化財になっている本館、講堂、図書館について、数年前から耐震性を含めて改修を始め、講堂と対をなす形で 100 周年記念館を新設しました。1 階は高校の職員室、2 階には ICT ホールと情報センターを作り、海外の提携校などと通信で結んだ相互授業ができる施設としました。また、2 年前の 4 月には、制服を一新しました。ジェンダー問題が指摘されたタイミングでもあり、「個の尊重」をテーマに女子生徒がズボンを着用できるようにしました。スカートも希望すればもちろん選択できますし、合わせて男子生徒の制服も同じデザインにし、詰め襟からブレザータイプにしました。また、校章を整理、ロゴマークやキャッチコピー「伝統と未来をみつめる時計台」を決定しました。

— 記念講演会なども開催していますね。

高瀬校長 はい。本校では週休 5 日制実施に伴って年 10 回ほど行うことにした「土曜講座」とコラボした記念講演会を 4 月に開催、大河ドラマ「光る君へ」などで知られる脚本家の大石静さんに「テレビドラマの作り手として」の演題で話していただきました。100 周年の記念講演会は 7 月に、郡健二郎・名古屋市立大学理事長に講演をしていただきました。文化財公開活用講演会として 7 月に文化財保存等にご協力頂いた西澤泰彦・名古屋大学名誉教授の講演も行われました。

— 記念式典は。

高瀬校長 最初は全校生徒を含めた式典を考え

ましたが、生徒数が 1800 人以上で、会場選びが難しく、11 月に名古屋市内のホテルで、教職員と来賓による式典としました。生徒とは、別の形で 100 周年を祝いたいと考えています。

— 歴史を振り返り、建学の精神を聞かせてください。

高瀬校長 建学の精神は「質実剛健」「勤勉力行」「報恩感謝」です。生徒に必要なこととして精神力と健康で健全な身体、強固な意志で努力を続ける行動力、人のために努力する感性豊かな人間…と分かりやすく説明しています。100 年というスパンで考えると、戦後男女共学の中学校を作ったことが大きなターニングポイントでした。1947 年に滝中学校を併設、48 年滝実業高等学校となり、普通科を開設して男女共学になったのが 49 年です。その後、普通科に力を入れ始めたのが今の滝学園の基になっていると思います。98 年までに農業科、商業科の募集を停止、2000 年から滝中学・高校普通科の中高一貫校となりました。

— 現在の生徒数、男女比は。

高瀬校長 中学が 1 学年 250 人、計 750 人で、高校は 1 学年 350 人、計 1050 人、合わせて 1800 人ほどです。男女比はいずれもほぼ半々です。私が着任した 40 年ほど前は普通科の男女比が 2 対 1、商業科は逆でした。時代とともに学校の雰囲気も変わってきました。

— 愛知県内屈指の進学校ですが、教育方針を。

高瀬校長 私の弟は本校出身ですが、早朝追試がありました。特に数学はほぼ毎週のように追試があり、英語の単語試験も毎日あったといいます。私の着任時もその流れは残っていましたが、生徒気質が変化してきていて、詰め込み教育でただ鍛えるだけでは駄目だという話が出てきました。試行錯誤していましたが、大学のリベラルアーツ教育も見学し、生徒にとって勉強以外に教養という柱もいるのではないかと